

## 研究テーマ：聞き取りの力を向上させるための指導の工夫

所属 香我美中学校

名前 堅田 三佳

RG JH7

## 1. 研究の背景

3年生の生徒は、落ち着いた態度で授業に取り組むことはできているが、全体的におとなしく、受け身である。そのため、授業評価表等にした感想の中からは「楽しい」と感じていることがわかるが、それが授業中に感じ取れない場合がある。また、ワークシートやノートなどの書く活動は静かに最後までできているが、積極的に声に出して発音したり音読したりすることは苦手である。また、さらに高い目標をめざして積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒もいるが、習った英文を使って自己表現をすることに消極的な生徒もいる。簡単な会話、短い会話、今日の目標文（黒板に書いた英文・単語が提示されている）はよく理解し、聞き取りもよくできるが、長い文や、ALTの説明になると聞き取りが弱く、内容を理解しきれていない。しかし、ところどころで、ALTの説明を切り、日本語での説明を入れていけば、聞く意欲を持ち続けて最後まで聞くことができる。

## 2. リサーチ・クエスチョン

「聞き取りの力を伸ばすためにはどのようにすればよいか」

## 3. 予備調査

## (1) 授業観察の結果

- ・比較的短い会話や英文、身近で興味のあること、仲間の発表等は最後まで聞くことができる。
- ・ALTの話す文化紹介や体験、長い説明や会話は、区切りをつけて日本語の説明を入れないと、途中で聞くことをあきらめることがある。
- ・日本人の指導者がいると指導者の日本語の説明を待っている。
- ・ごく短い英文は、意欲的に何度も繰り返し聞こうとする。
- ・聞き取る事柄を1つに絞ると、それを聞き取ろうと何度も繰り返し聞こうとする。

## (2) 英語力を示すデータ

- ・CRTの分析によると「簡単な英語を聞き取ること」は全国の得点率を上回っているが、「具体的な内容や大切な部分を聞くこと」は全国の得点率を下回っている。
- ・絵を見ての聞き取り問題は、正解率が高く80%であった。

## 4. 仮説の設定

## (1) 仮説

仮説1 聞き取りのポイントを絞って聞かせれば、意欲的に聞き取ろうとするのではないか。

仮説2 同じような内容の聞き取り練習を集中しておこなえば、聞き取りの力が伸びるのではないか。

仮説3 聞き取る英文の速さを徐々に速くして、繰り返し聞かせれば、自然な速さの英語が理解できるようになるのではないか。

仮説4 音読をしっかりさせれば、子音と母音のつながりがわかり、聞き取りの力が伸びるのではないか。

## (2) 実践の方法

仮説1 ある1つの単語だけ、またはある1つの音だけ、または聞き取る内容を1つだけに絞って聞き取ることができるまで繰り返し聞かせる。

仮説2 50分授業の初めに10分程度の聞き取り問題をする。次にそれと同じか、関連した文法事項

が使われている短い会話や説明文を何度か聞かせる。最後に、初めに聞いた英文と同じような状況で異なる内容の英文を聞いて、最初とどのくらい聞き取りができていたかを比べる。

仮説3 ALTに徐々に速く英文や単語を言ってもらい、書き取りや発音をさせながら、最後には自然な速さの英文や会話に慣れさせる。

仮説4 日本人が苦手な音や、日本語にない音、子音で終わる単語の次に母音で始まる単語が続く場合の、音のつながりを克服することができるように、声を出してALTやCDの英語をまねして繰り返して音読の練習をさせる。

## 5. 計画の実践

仮説1 聞き取る内容を1回ごとに1つずつ示しながらCDを聞かせた。

仮説2 教科書(NEW HORIZON 3)p.19 Listening Plus 2を授業の最初に聞き取りをしてStep1からStep2の設問の答えを記入させた。次に現在完了形の使われている会話文や説明文を短く区切って聞き、内容理解ができていたかを確かめながら次々聞き取り練習をさせた。そして、授業の最後に、もう1度、教科書の内容と同じ状況で、内容の違った英文を聞き、ワークシートに答えを記入させた。

仮説3 ALTに徐々に速く、英文や単語を発音してもらい、最後には、自然な速さの英文や、会話についていけるように、書き取りをさせたり、後について言わせたりした。

仮説4 教科書の比較的長い文章を選び、その中から、特に生徒たちにとって聞き取りにくい音のつながりを数カ所取り出した。取り出した箇所を、最初はゆっくり、徐々に速くしながら何度もALTのあとについて集中して発音練習させた。そのあと、もとの文章の中で自然に発音できるように繰り返し練習をさせた。

## 6. 結果の検証

生徒は何を聞き取ればよいかはわかっていたり、聞き取る事柄が1つだけならば、なんとか聞き取ろうと集中して聞いた。また、短い英文であるほど、何度も聞くことについていやがらない傾向があった。

ALTやCDの英語をまねて、繰り返し音読の練習をすることによって、子音で終わる単語の次に母音で始まる単語が続く場合の音のつながりがわかり、苦手だった難しい音を自分で発音できるようになってきた。このことによって自然な速さの英語に抵抗がなくなり、聞き取りの力が向上してきているように思われる。また聞き取れた時の充実感が、次の事柄を聞き取ろうとする意欲につながっているように思われる。

## 7. 成果と課題

これからも、長い英文でも抵抗なく聞き取りを続けられる取組をしていくことが必要であり、生徒が喜びや充実感を持って、毎日音読を続けられるように工夫していかなければならない。そのためには、生徒の興味・関心のある題材選びや、教材研究が大切であろう。そして、英語でのコミュニケーション活動を活発にし、自己表現をできることの喜びを味わわせることに、これからも努力を続けていきたい。

今後、生徒たちの意見や、要望も聞き入れながら、いかに繰り返し学習を効率よくさせるかが課題である。また、ALTの協力は不可欠で、今後打ち合わせの時間をどう確保して、継続して取り組んでいくかも課題である。